

『主体的』

-よくいう「主体的」ってのは『考えてから表現する主体性』のことなんだ-

「生涯に亘っての社会的・職業的自立に向けた資質の育成をめざす「キャリア教育」の理解を進めていく上で、「主体的」ということばの理解は欠かせません。なぜなら前号でお伝えをしたように人生の意味や価値、重みや方向性を、「考えて」「選り出して」「表現する」のは他でも無い「ワタシ自身」なのですから。

「さて、遠回りをしてから本題に入っていきますが、「暮らすこと」や「働くこと」って問題解決の繰り返しだと思いませんか？「夏休み明けの生活单元どう展開しようか？」「体制の厳しい今日をどう切り抜けようか？」「A くんの問題行動をどう解決していこうか？」「バスの件を保護者にどう伝えようか？」「B さんがブランコから落ちた！」「今日の夕飯何にしよう？」「週末はどこに行こう？」「新型コロナウイルスへの家族での対応はどうしよう？」などなど。その一つ一つを、私達も持っている知識（知っていることや経験則）と技能（スキル）を元手に考えて（思考）、決めて（判断）、他人に伝えて（表現）、乗り切っていますよね（図2）。「もう、全てを投げ出して2週間くらい石垣島に逃げたい！！」「今日は仕事をズル休みしてスーパー銭湯でゆっくりしたい！！」って思っても、そっちには行かずに、歯を食いしばって職場に来てますよね。

「知的障害特別支援の教育課程は「暮らし上手・働くこと上手になるための教育課程だ」と言われます（今回の学習指導要領改定では通常教育も大分寄ってきましたが…）。特に生活单元学習では、子どもたち発の「問題」を作り、計画—準備—実施—反省—再計画の一連の流れの中で問題解決を図っていきます。その中で私達と同じく子どもたちは持っている知識と技能を元手に考えて（思考）、決めて（判断）、他人に伝えて（表現）、一つ一つの单元を乗り切る度に「暮らし上手」になっていきます（作業单元の場合は「働き上手」）。

「さて、特別支援では「主体的」という言葉をよく使いますよね。上までに説明してきたように本来的にはこの「主体的」の言葉は「主体的に生活することが上手になる」とか「主体的に働くことが上手になる」という、「前提となる修飾することば」があります。もう一步踏み込むと、自分の持っている知識や技能を元手にして（だからこそ基礎学力はとて大切！！）、考えて（思考）、決めて（判断）、他人に伝える（表現）ことを「主体的」にできる子を育てるということです。反対から言えば「好きなことだけを主体的にする」ことを肯定することばではないんです。

「そして、その問題解決の営みを「経験」として蓄えて、子どもはそれを価値付け、意味づけ、重み付け、方向付けていきます。先生はガードレールを作る様にコーチングするんでしたよね（図4）。そしてそれが上手いくと、子どもたちはその経験を元手にして、再度、再再度、再々再度「考えた上で主体的に」日々の問題解決に向かっていきます。そうやって生涯に亘って主体的な「暮らし上手」「働き上手」な人が育っていくんです。

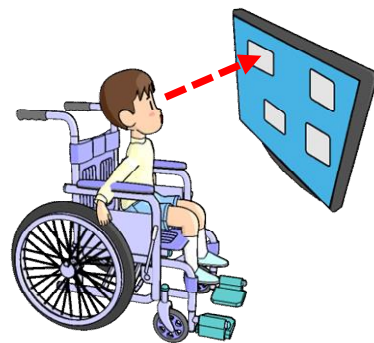


図1 99.999%の支援と0.001%の自立

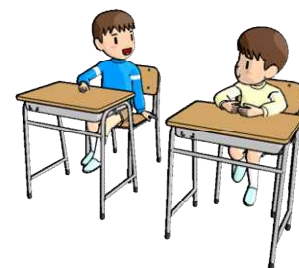


図2 「働く」「暮らす」は問題解決の連続



図3 問題解決の土台は思考・判断・表現
更なる土台は「基礎的な学力」

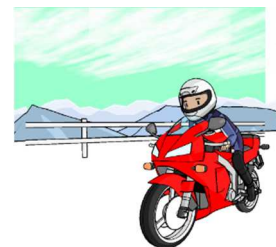


図4 意味づけ・価値付けのガードレール



図5 「暮らし上手」「働き上手」な人を育てる